

# 仕事と生活の バランス

2023  
AUTUMN

vol. 62

ワーケーション

どこでもオフィスが兵庫の魅力

（2022ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ  
ひょうご仕事と生活センター長賞作品）

わが社のWLBな人

詳しくは裏表紙へ



特集1

ワーク・ライフ・バランス推進のため  
中小企業従業員意識調査を実施しましょう

特集2

あなたの会社に外部専門家を派遣します

6・7 | センターからのお知らせ／県政トピックス 8 | わが社のWLBな人

# ワーク・ライフ・バランス推進のため 中小企業従業員意識調査を実施しましょう

ひょうご仕事と生活センター（以下センター）では、従業員の働き方や職場環境の改善に取り組むたい企業・団体の要望に応じ、従業員の仕事や私生活に関する意識調査を実施しています。組織の現状を把握するとともに優先的に取り組むべき課題を分析し、改善策を提案しています。

## 従業員意識調査とは

従業員意識調査はセンターが提供している支援メニューの一つで、2011年度から開始。企業・団体が従業員の生の声を聞いて現状や問題点を把握、従業員の要望やWLBの満足度を認識した上で、より働きやすく、働きがいを感ぜられる職場づくりを進めるためのものです。今年3月までに、延べ328社4万1,562人（従業員1,000人以上のグループ企業を含む）を対象に実施しました。

現在は従業員がおおむね300人以下の中小企業を対象に、1社当たり2回まで実施をサポート。2回目の意識調査を行うことで取組成果の確認を希望する企業が増えています。

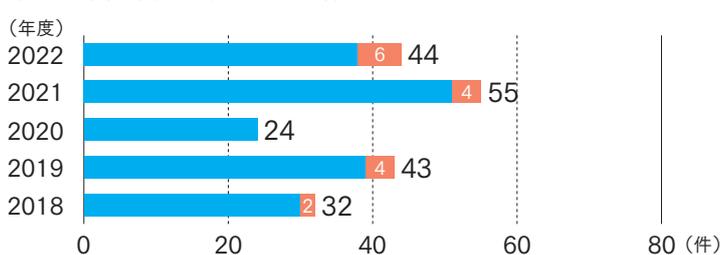
※回答は無記名で、①配布された調査票・マークシートに直接記入する筆記回答方式②パソコン・タブレットによるWEB回答方式のいずれかを選べます。

### 目的 従業員へのアンケート調査で現状を把握する

#### 〈調査項目〉

- ・従業員のWLB満足度
- ・職場環境の問題点
- ・従業員のやる気度・モチベーション
- ・要望する制度や取組内容
- ・介護リスク
- ・残業時間・休日出勤・有給休暇取得

中小企業従業員意識調査実施件数



### 効果 課題の把握と改善により経営改善につなげる

#### 〈具体的な効果〉

- ・職場環境の改善
- ・コミュニケーションが良くなり組織力向上
- ・時間効率が上がり生産性向上
- ・従業員のモチベーション向上
- ・新たな制度や取組開始

#### 経営者や人事・総務担当者は

#### 従業員の次のような思いを知ることができます

- ・仕事と私生活のバランスがとれているか
- ・職場の環境をどのように思っているか
- ・自身の仕事ぶりに対する給与、処遇をどう感じているか
- ・働きがいを感ぜているか
- ・どんな不満を持っているか
- ・会社に対する前向きな改善提案について
- ・ここで働き続けたいと思っているか

## 調査の流れ

宣言  
+  
自己診断

事前  
ヒアリング

アンケート  
設計

アンケート  
実施

分析

結果報告

課題に対応  
した取組の  
実施

2回目の  
従業員意識調査で  
意識の変化を確認

# 意識調査が働き方改革を進める契機に 従業員満足度は8年で飛躍的に上昇

株式会社川嶋建設(豊岡市)【2022年度認定企業】



同社のWLBを進める総務部の佐々木部長(左)と野山さん。いずれも健康経営アドバイザーに認定されています

## 厳しい結果を受け取組を推進

同社はこれまでに2回、従業員意識調査を利用しました。最初は取組宣言後の2014年2月に実施。社内のワーク・ライフ・バランス(WLB)を推進していくに当たり、従業員が「何を考えているのか」「何を問題視しているのか」を把握しておく必要があると考えたからです。

1カ月後にひょうご仕事と生活センターから届いた結果は厳しいものでした。「部署内の部下や同僚とのコミュニケーションは円滑である」「職場の同僚は仕事と生活の両立に理解がある」については肯定的評価が5割を超えていましたが、「育児・介護のために長期休暇できる雰囲気」「定時に帰りやすい雰囲気」「人材と仕事量のバランスは取れている」は否定的評価が6割を超え、「有給休暇が取りやすい雰囲気」に至っては7割超が否定的でした。

当時の建設業の現場は週6日稼働が当たり前。納期を重視して土曜の休日出勤や残業が常態化していました。「休みなんか取れるわけじゃないじゃないか、残業も減らせるわけじゃないじゃないか、が従業員の本音だったと思います」と話すのは総務部長の佐々木一彦さんです。

そこで月に1回、土曜を「一斉閉所日」に設定。この日は作業をせずに全員休むと決めました。協力会社の作業員は日給制のため稼働日が減ると給料も減ることから、当初は社内外から反発があったものの徐々に浸透。その後、業界全体でも納期の見直しなど働き方改革が進み、同社の取組の追い風となりました。近年は、年に5日「一斉有休取得日」を設けています。「全員が有休を取ろうという日です。弊社では自主性に任せるより、ある程度強制的に進められた方が定着しやすいようです」

休みを取りやすくすることと並行して、生産性の向上を目的にDX(Digital Transformation)化を進めました。測量にドローンを導入したり、工事現場を映像化して遠隔管理できるようにしたり。「今までは3人必要だった業務が、今後は1人もしくは2人で済むようになってくると思います」



ドローンでの測量など、建設現場のDX化が従業員の働き方改革を後押し

## 従業員の健康を第一に考えて

さらに、会社が発展するには従業員の健康が第一と健康経営を推進。人間ドックの補助金をアップするとともに、健康診断で要検査となった人には平日の検査を促し、その場合は出勤扱いとしています。また、40歳以上は脳ドックの受診を推奨し、費用も全額負担。従業員の健康の維持に努めています。

昨年5月、これまでの取組を検証するため、2回目の従業員意識調査を実施しました。その結果、「40時間以上」が半数を占めていた月平均の残業時間は減少し、「残業なし」も128人中30人いました。有給休暇の取得日数は、5日以上の人(有給休暇の付与日数が年10日未満の人を含む)が26%から77.2%に増えました。「会社は従業員の健康に配慮している」は7割近い肯定的評価を得ました。「1回目に比べ従業員満足度が上がっていて、正直驚きました。ワーク・ライフ・バランスの取組がみんなに届いている、間違っていないんだと本当にうれしかったです」

今後は「完全週休2日制を早急に実現したい」と佐々木さん。従業員が働きやすい、働きたいと思える職場づくりはこれからも続きます。



# あなたの会社に外部専門家を派遣します

ひょうご仕事と生活センター(以下センター)では、企業・団体のワーク・ライフ・バランス(WLB)推進を後押しするため、外部専門家を派遣しています。

現在、センターでは社会保険労務士、中小企業診断士、キャリアカウンセラー等さまざまな資格や経験を持った外部専門家59人を登録しており、外部専門家による支援や研修を無料で利用できます。

外部専門家の派遣には、短時間勤務や在宅勤務などの両立支援や、制度の導入、就業規則や業務の見直し等、多様な相談に合わせて実践的なアドバイスを行う「実践支援」と、従業員の意識改革等、WLB実現推進に向けた「研修」があります。

研修のテーマ選定については、センターのコーディネーター・コンサルタントが自己診断や従業員意識調査、ヒアリング結果を基に、企業・団体のご担当者と一緒に考えます。

外部専門家の派遣を希望するときは、まず、センターのコーディネーター・コンサルタントにご連絡ください。皆さまのニーズに最適なサポートを提供できる外部専門家を選び、派遣します。



## 実践支援

※1企業につき1年度5回まで

担当コーディネーター・  
コンサルタントに相談

外部専門家の選定

内容に応じて、  
相談や実践的なアドバイス

- 両立支援制度、導入事例等の相談
  - 業務内容、業務体制見直しのための相談
  - 職場環境改善のための相談
  - 制度を活用できる風土づくりの相談
- 等

## 研修

※1企業につき1年度3回まで

担当コーディネーター・  
コンサルタントに相談

外部専門家の  
選定

事前打ち合わせ

研修の実施

- WLB基礎講座
  - 部下のモチベーションを引き出すための管理職研修
  - ハラスメント予防のためのコミュニケーション研修
  - 仕事と介護の両立セミナー
- 等

※外部専門家派遣には「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」への登録が必要です。

ひょうご仕事と生活センター 相談・サポート [検索](#)



## 形骸化しつつあった研修を 自社に合った内容に

創業70年を超え、主に国や研究機関、メーカーから依頼された材料試験、化学分析などを手がける同社。従業員420人のうち319人が技術職です。3年前からセンターの外部専門家派遣制度を利用し、新入社員向けの「会話とコミュニケーションスキル」、新入社員を指導するトレーニングパートナーを対象とした「後輩のやる気を高める関わり方」など計6回の研修を行ってきました。

「最近研修が形骸化しつつあったので、内容を見直し、より身に付くものになるようコーディネーターさんに協力



レジュメに記入した内容を1人ずつ発表することで、それぞれの考え方を共有。

「本年度から具体的な年間スケジュールを組み社員教育を行っています」と話す上野さん。



をお願いしました」と話すのは、本年度から社員教育を担当する管理本部の上野錦さん。7月には、コーチングやチームビルディングを専門とする外部専門家の黒田晴美さんを派遣してもらい、2時間の「WLB推進のための社会人としてのマインドセット研修」を実施しました。

参加者は4月に入社した男女16人で、うち2人はオンラインで受講。レジュメにはキーワードを埋める空欄や文章を書く欄があり、5、6人ずつのグループに分かれて記入内容を発表する時間も設けられました。

「自ら考え主体的に取り組めるプログラムになっていたのが良かったです。センターさんは講師の選択肢が多く、決められたコンテンツから選ぶのではなく、その会社に合った内容にアレンジしてくださるのがありがたいですね」と話す上野さん。10月には新入社員のフォローアップ研修も計画中です。

## 社員のコミュニケーション力 アップを目指して

名古屋に本社を構える同社の営業拠点の一つとして6年前に開設。主に近隣の自動車部品メーカーの検査作業などを請け負っています。従業員は10代から60代まで59人おり、うち55人が技術職。通常は4、5人ずつのチームでクライアントの製造現場に出向いて業務を行うため、チームワークが欠かせませんが、年齢の差があり、コミュニケーションがうまく取れていないケースも多々見受けられたといいます。

統轄マネージャーの木村達哉さんは「仕事を円滑に進めるには、相手に伝える能力を高める必要がある」と感じ、



いろいろな人とペアを組みコミュニケーションの取り方を学びました。

センターの「キーパーソン養成講座」に参加し職場の課題が見えてきたという木村さん。



昨年、センターに相談。担当コーディネーターからコミュニケーション力の育成を得意とする外部専門家の山本伸子さんを薦められました。

事前の打ち合わせでは、特に力を入れたい部分などを伝え、7月に「伝わるコミュニケーション力を磨くコツ」と題した2時間の研修を実施。何度もペアやグループを組み換え、多くの人とコミュニケーションを取りながら進めるロールプレイング中心の実践的なプログラムには、4月に入社した新入社員から50代の管理職まで18人が参加しました。

参加者からは「どうすれば相手にうまく伝わるか考える良い機会になった」「今までのコミュニケーションを見直そうと思った」などの感想が寄せられました。所長の佐々木康久さんは「今後は仕事のモチベーションを上げるための研修も検討しています。学んだことをぜひ現場で生かしてもらいたいです」と話しました。

# センターからのお知らせ

## ワーク・ライフ・バランスフェスタ 参加無料

詳細は  
こちらから



11月17日(金) 13:00~16:00

【会場】兵庫県公館 【定員】先着300人

### ①表彰式・修了式

- ・ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰式
- ・ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ表彰式
- ・シンボルキャラクターWLB7名称発表
- ・キーパーソン養成講座修了式

### ②特別講演

「やりがいと生産性を高める未来の働き方」

【講師】太田 肇 氏

公務員を経験後、滋賀大学経済学部教授などを経て2004年より同志社大学教授。著書に『何もしないほうが得な日本』『同調圧力の正体』(PHP新書)、『組織を強くする人材活用戦略』(日経文庫)など多数。



## ワーク・ライフ・バランス地域シンポジウム 参加無料

神戸地域

10月4日(水)14:00~16:00



元スターバックスCEOに学ぶMISSION~私たちは何のために働くのか~

【会場】三宮研修センター 【定員】先着120人

【講師】岩田 松雄 氏

(株)リーダーシップコンサルティング代表。数々の企業役員、代表などを歴任後、2009年スターバックスコーヒーゼジャンCEOに就任、再成長軌道に乗せる。著書に『ミッション 元スターバックスCEOが教える働く理由』(アスコム)など。



詳細は  
こちらから

姫路地域

10月31日(火)14:00~15:30



中小企業における女性活躍推進の方策と事例

【会場】姫路商工会議所 【定員】先着70人+オンライン

【講師】上芝 美恵 氏

ソフィアサポート代表。さまざまな企業で組織活性化、管理職育成のコンサルティングを実践。体系的なプログラムで離職率が低い組織づくりを提供している。



詳細は  
こちらから

阪神地域

11月13日(月)14:00~15:30



人工知能と共存する未来の職場・働き方~ワーク・ライフ・バランスの観点から考える~

【会場】伊丹商工プラザ マルチメディアホール 【定員】先着100人

【講師】坂本 真樹 氏

国立大学法人電気通信大学副学長。内閣府のAI関連委員会委員などを歴任。NHKラジオ第一放送『子ども科学電話相談』のAI・ロボット担当レギュラー。



詳細は  
こちらから

## ワーケーション体験セミナー in 宍粟

詳細は  
こちらから



10月25日(水)10:15~16:40

### 体験プログラム

- ・森林セラピー体験&E-BIKE乗車体験
- ・ワーケーションセミナー

「企業におけるワーケーション推進のメリットと留意点」

【会場】フォレストステーション波賀 【定員】先着20人

【参加費】1,500円(昼食代、保険料等)

【講師】武田 かおり 氏

ひょうご仕事と生活センター外部専門家。2008年テレワーク専門相談員就任以来15年間、「テレワーク社労士」として政府主催セミナー、企業・団体での講演、テレワーク導入相談に対応している。



## 安心・安定の福利厚生制度 「ひょうごファミリーパック」のご案内

兵庫県では、中小企業を対象とした地域密着型の福利厚生制度「ひょうごファミリーパック」を提供しています。ニーズの高い「健康」「福利厚生」「給付」「融資」の4分野を全てカバーし、1社単独では導入困難な大企業並みの福利厚生を代行し、元気な職場を応援します。

法人企業だけでなく、小売商等の個人事業所、医療・福祉施設、各種団体も加入いただけます。ぜひご活用ください。

### 中小企業経営者の皆様へ



#### ……経営者の方にも社員さんにも嬉しいメニューが！……

- インフルエンザ予防接種補助(最大3,000円/人) **配偶者も!**
- 勤続報奨金など12種類の給付金を支給
- 人間ドック補助(最大20,000円/人) **配偶者も!**
- 提携施設で使える利用券24,500円分  
(内、食事券等最大6,000円)
- パート・アルバイトさんの会費1/2を助成(3年間 最大9,000円/人)

### ひょうごファミリーパック

(公財) 兵庫県勤労福祉協会 共済部  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28  
TEL078-351-6786 FAX078-341-1520



### ワーク・ライフ・バランス 関連書籍紹介

ひょうご労働図書館(兵庫県中央労働センター1階)は、労働関連の図書・資料のほか、専門書から娯楽書まで幅広いニーズに対応する“みんなの図書館”です。お気軽にご利用ください。TEL 078-367-3895

ひょうご労働図書館 **検索**

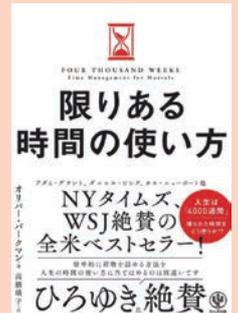
### 「限りある時間の使い方」(2022年6月発行)

人生はたった4,000週間、限られた時間をどう過ごすか?!

「効率崇拜を見直し、つねに忙しくあれという教義を拒否し、本当に重要なことで人生を再構築するよう促してくれる」と紹介されている本書。300万人の人たちが、「スイカに輪ゴムを巻きつける動画」を注視してしまった事例に、うなずかれるかもしれません。

「親切の反射神経を身につける」「何もしない練習をする」「退屈で、機能の少ないデバイスを使う」など“有限性を受け入れるための10のツール”も必見です。

著者:オリバー・パークマン、訳者:高橋 璃子 発行:かんき出版



### 「子育てに優しい職場づくりフォーラム」のご案内

兵庫県では、出産・育児をしやすい職場環境づくりをテーマとしたフォーラムを毎年開催し、男性の家事・育児への参画を応援しています。

この機会に、誰もが仕事も家庭も大切にできる職場づくりについて考えてみませんか。

●日時: 10月12日(木)13:30~15:00

●開催方法: オンライン(Zoom)

問い合わせ先: 兵庫県男女青少年課 TEL 078-362-4185

★詳しくはこちら→[https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/titioya\\_kosodate.html#k2](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/titioya_kosodate.html#k2)



# わが社のWLBな人

シンボルキャラクター「WLB7」のテーマに沿ってワーク・ライフ・バランス(WLB)を進める方々をFacebook、Instagramで取り上げています。

2023年4月～6月に取り上げた人を投稿日順に紹介します。



Instagram



facebook



## WLB7

- ペンギン(子育て)…夫婦共働きで協力しながら子育て
- さる(介護)…親の介護を行いながら職務に励む
- くま(在宅勤務)…テレワークを利用して在宅勤務
- ライオン(キーパーソン)…社内におけるWLBの旗振り役
- みつばち(女性活躍)…女性社員のリーダーで初の女性役員候補
- ぞう(再雇用)…再雇用制度を利用するベテラン
- カエル(フレックスタイム)…フレックスタイムを利用

### 【2022年度認定企業】

三和鋼業株式会社(尼崎市) 野澤さん〔表紙写真:右〕



(女性活躍)

7歳と4歳の子どもを持つ野澤さんは同社に転職して約2年、現在は設計者という立場で働いています。2人目の長かったイヤイヤ期も乗り越え、これからますます仕事に励もうと考えています。設計の仕事は転職当初に漠然と思っていたよりずっと難しいものだと思わされたのですが、ゆっくりでも着実に経験を積み重ねて、目

標としている今の上司の仕事ぶりに少しでも近づけるよう、精進しています。「他部署とのやり取りが活発な会社なので、いろいろな情報が入ってくる分、自分の仕事に工夫が求められますが、それだけ成長も大きいと思っています」とお話しされました。

〈2023年4月〉

### 【2022年度認定企業】

有限会社エニシング・ドゥー(太子町) 清水さん〔表紙写真:中〕



(女性活躍)

この道10年にもなる女性のトラックドライバーの清水さん。昔から、お父さんの影響でトラックに慣れ親しんでいたことがトラックドライバーになるきっかけだった、とのこと。途中、別の会社でドライバーをしていた時期もありましたが、居心地の良いエニシング・ドゥーの方が働き

やすい、と再度入社されることになったそうです。「覚えることがたくさんあるし体力も必要ですが、優しい人も多く、楽しく働くことができています。運転中は音楽をかけてノリノリで歌っています」と、明るくお話しされました。

〈2023年5月〉

### 【2022年度認定企業】

特定非営利活動法人こぐまくらぶ(明石市) 中山さん〔表紙写真:左〕



(キーパーソン)

入社15年目を迎えた副理事長の中山さん。この間に事業所数は12増え、従業員は190人も増加。理事長の志に必死で付いていった結果、「気付けば計画相談支援事業所の管理者を任されるようになり、各事業所の管理者の相談に乗って、理事長へ橋渡しするスーパーバイザーになっていた」と笑って振り返ります。中山さんのよ

うなキーパーソンが、同法人には他にも4人いて、全員がまだ事業所が1つか2つしかなかった頃の仲間なのだとか。事業拡大を支える縁の下に、共通の思い出でつながる強い絆があることに心を打たれました。

〈2023年6月〉

## センターの主な事業

- ワンストップ相談 ● コーディネーター、コンサルタントの派遣 ● 外部専門家による研修・実践支援
- テレワークサポートセンター ● 自己診断システム ● 中小企業従業員意識調査 ● 企業助成

## 公益財団法人 兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-28 兵庫県中央労働センター1階

TEL 078-381-5277 FAX 078-381-5288 E-mail info@hyogo-wlb.jp

開館 月～金曜 9:00～17:00(祝休日、年末・年始を除く)

### 阪神事務所

〒660-0881 尼崎市昭和通2-6-68

尼崎市中小企業センタービル6階

TEL 06-6481-1888

### 姫路事務所

〒670-0947 姫路市北条1-98

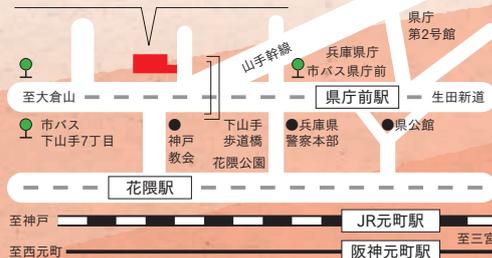
兵庫県立姫路労働会館1階

TEL 079-288-2603

携帯、  
タブレットから  
アクセスできます



## 兵庫県中央労働センター1階 ひょうご仕事と生活センター



- 神戸市営地下鉄「県庁前」駅西出口③から西へ徒歩7分
- 神戸高速鉄道「花隈」駅東口から北へ徒歩9分
- JR「元町」駅西口から北西へ徒歩12分
- 阪神電鉄「元町」駅西口から北西へ徒歩14分

(2023年9月発行)

<https://www.hyogo-wlb.jp/>

ひょうご仕事と生活センター

検索